

(様式第1号)

令和6年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	令和7年2月10日(月) 10:00~12:00
場 所	芦屋市役所北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 酒井 達哉 副委員長 柳生 加代子 委員 足立 裕一 委員 中村 紀子 委員 越野 睦子 委員 池田 恵 委員 尾上 昌希
欠席者	委員 井岡 祥一 森田 ゆうこ 守上 三奈子
事務局	教育部長 萩原 裕子 社会教育推進課長 渡邊 一義 社会教育推進課社会教育推進係長 池田 聡子 青少年育成課長 富田 泰起 青少年育成課青少年育成係長 芝田 勇生 青少年育成課放課後事業担当主査 常塚 貴紀 青少年育成課青少年育成担当主査 笹井 彩喜子
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 令和6年度事業報告について
  - ア 校庭開放事業について
  - イ あしやキッズスクエアについて
- (3) 令和7年度放課後プラン事業について
- (4) 学校運営協議会と地域学校協働活動について
- (5) その他
- (6) 閉会

2 提出資料

- ・ 【資料1】校庭開放事業について説明資料
- ・ 【資料2-1】あしやキッズスクエアについて説明資料
- ・ 【資料2-2】あしやキッズスクエア新聞第8号
- ・ 【資料2-3】あしやキッズスクエア新聞特別号

- ・ 【資料3】 令和7年度放課後プラン事業について
- ・ 【資料4】 学校運営協議会と地域学校協働活動について
- ・ 【資料5-1】 学校運営協議会の実施にあたって（配布）
- ・ 【資料5-2】 学校運営協議会の委員のみなさまへ【チラシ】

### 3 議事内容

#### <酒井委員長>

議題に入らせていただきます。

議題（1）「令和6年度事業報告」について事務局からお願いいたします。

#### <事務局：池田係長>

（配布資料：【資料1】に基づき、校庭開放事業について説明）

#### <酒井委員長>

ありがとうございました。ご質疑等ありませんでしょうか。

またあるようでしたら、来年度のプラン事業についてのところで申していただければと思います。

それでは続きまして、あしやキッズスクエア事業について事務局よりお願いいたします。

#### <青少年育成課：常塚主査>

（配布資料：【資料2-1】【資料2-2】【資料2-3】に基づき、あしやキッズスクエア事業について説明）

#### <酒井委員長>

まとめて最後までしていただきましてありがとうございました。

それでは何かご質問ご意見等ありましたらお出してください。お願いいたします。

#### <足立委員>

潮見は25名位いますが、見に行ったら子どもが部屋に大体1人か2人しかおらず、他の子は学校の運動場で走り回っているような感じです。ちょっとしたけがをした等事故の報告はないのでしょうか。

#### <青少年育成課：常塚主査>

潮見に限らずキッズスクエアでは事故はどうしてもありますが、今年度に関しては今のところ大きな事故はありません。

#### <足立委員>

時々覗きに行った時、1人か2人位が部屋で遊んでいます。他の子はどこへいったのかなと思います。このキッズの場合は自由ですよ。だから、あんまり目の届かないところで何か起きないかという心配をしています。

<青少年育成課：富田課長>

できるだけ事故が起きないようにスタッフも注意していますが、やはり子ども同士が遊んでいるので、どうしても事故は起きます。その時、例えば応急処置であったり、保護者の方へ連絡したり、必要があれば救急車を呼ぶというように、普段からスタッフの方にはお伝えはしております。昨年度は、そこまで大きな事故はありませんでしたが引き続きそういった大きな事故が起きないようにスタッフも青少年育成課も気をつけていきたいと思っています。

<足立委員>

子どものすることですから、事故はあると思います。後の処置について、保健室をオープンで使えるのか、救急車をすぐ呼ぶのかという事があります。大分前の話ですけど潮見中学校の運動会で倒れた時に、僕は元消防団で消防関係詳しいので、「すぐに救急車呼びなさい。」と言いましたが、これぐらいで呼んでもいいだろうかと心配される先生がいました。「いやそんなのは関係ない。もう呼びなさい。」と言って呼んでもらいました。そういう後の処置については、すぐに呼んで、プロに任せるといったような感じで、遠慮しないで呼んでもらったほうがいいと思います。

<青少年育成課：富田課長>

スタッフには、頭のけがや高いところから落ちた時は、悩まず救急車を呼んでくださいということ伝えてあります。必要があれば青少年育成課に連絡してもらって連携しながら対応を協議したり等もさせていただいておりますので、引き続きそういったところを十分気をつけていきたいと思っています。

<社会教育推進課：渡邊課長>

あと判断に悩む場合ですが、井を先に押しただいて7119番。  
判断に悩む場合の119のやり方もありますので、そういったことも含めてお伝えしていこうと思っております。

<越野委員>

そちらの方に関連しまして、私は山手小学校のキッズスクエアのマネージャーをしておりますが、子どもたちが走り回ったり、ぶつかったり、高い鉄棒から落ちたり等いろいろありました。少しのけがでも「ワーッ。」と泣き叫ぶ時があれば、骨にひびが入っているような場合でも、「大丈夫大丈夫。」と言って遊び続けようとする子もいます。頭をけがした場合

であればすぐに救急車と思いますけど、その他の部分では結構判断に迷うところがあります。キッズは平日開催ですので、困った時には保健室の先生を頼って相談もできますが、心配なのは校庭開放で保健室の先生がいない時やキッズの夏休みや代休の時に先生がいらっしゃらない状態で、マネージャーと管理員だけの時にもしものことがあった時が心配です。マネージャーだけでも救急救命の講習会を受講しておいてもいいのではないかなと思います。

<酒井委員長>

資料戻りますけど、校庭開放事業、資料 1 において、今年度けが等はあったのでしょうか。ないとは言えませんので気をつけていただくことと、マネージャーさん等の救急の講習会をご検討いただくという、とても大切なお意見だと思いますので、何が起こるかわかりませんのでぜひよろしくをお願いします。

この事故等において、何かご意見、ご質問等ございませんか。

<越野委員>

校庭開放の時に、実際ちょっとしたすり傷等のけがをされた時は、どのような対応をされているのか教えていただけますか。

キッズスクエアでは救急箱などもあります。絆創膏を貼ったり、打ち身があった場合は冷やしたりできますが、そういう軽い処置ができるような体制にはなっているのですか。

<酒井委員長>

いかがでしょう。

<事務局：池田係長>

シルバー人材センターの方をお願いいただいております、そこからの報告がございませんので、現場でどこまでのけがで処置しているかというのがこちらでは報告を聞いていない状態です。

<酒井委員長>

ということはシルバー人材センターの方は、救急箱は持っておられ、持った上で見ていただいていることですね。

<社会教育推進課：渡邊課長>

その点につきましてはシルバー人材センターに確認させていただくと同時に、救急講習のご意見が出ましたのでその際にお伝えさせていただこうと思っております。

<酒井委員長>

またご確認及びご検討よろしくお願ひいたします。

<柳生委員>

この場でお聞きしていいかわからないですけれども、大災害等大地震、それから大津波警報があった時の、放課後の子どもたちの対応についてですが、私は浜風キッズの対応をしており、その時に問題になったのが、特に潮見・浜風・打出浜あたりは、避難場所が岩園になっているのです。それで、埋め立て地の4mくらい高いところから、一旦0m地帯を越えて岩園に連れて行くということに関して、こんなこと実際できるのだろうか、そんな事だったら学校の3階にまずは待機した方がよほど实际的じゃないのだろうかというような疑問点がスタッフの間で今、出ております。学校としてもそのような対応になっているようなので、学校と違う対応することはできませんが80%ぐらいを超えているような予測もある中で、一番不安視しているのがそこなのですけれども、その辺はどうなのでしょう。

<青少年育成課：富田課長>

青少年育成課でも災害が起こった時の対応について、具体的にどうするかというところを内部で協議をしております。例えば、基本的には学校と同じ対応をしていくとか、まだ学校の先生がいる時に子ども達が残っている時はそこと合流したほうがいいだろうとか、避難する時にも特に津波の災害の可能性のあるところについては、まず垂直避難する場合、鍵の用意ができていますのか等も含めて、内部でも協議をしております。今後そういったところをスタッフとも共有させていただき、災害が起こった時の対応方法をより具体的に想定しないといけないということと、それを踏まえて、訓練や研修等といったものを両面で進めていこうということで今準備をしておりますので、引き続き現場の意見も踏まえながら進めていきたいと考えております。

<足立委員>

この件に関しては僕らがずっとやってきているところで、学校、教育委員会の方は水平避難しろ（潮見だったら山手小）。と言っていますが、それはその時にまた検討してくれることになっているのですが、そうではなく、学校が終わってキッズや土曜日にどうするかという事。訓練実施していない。だから今研究している避難のことを決めておかないといけない。僕ら防災士として見たら、水平避難は無理で、やはり垂直で上がりなさいけど、教育委員会は水平だと言っているから水平にしないといけない。それは研究をしていったらいいのだけど、僕らがやる時に、この人たちをどうする、誰が責任を持って逃がすのか、土曜日のシルバー人材センターの人たちに地震があったら常に上に逃がしてよなど、この時をどうしたらいいかということを決めて欲しいです。

<青少年育成課：富田課長>

おっしゃっていただいている通りです。少し話がそれますが、土曜日に行っている学童保育ですが、津波の警報が出れば垂直避難ということでスタッフには説明をしていたものの、普段は3階まで上がる階段の鍵が空いていますが、実は土曜日は閉まっている時も実際ありました。そこは学校とも連携して合鍵を作ることで対応しました。放課後も施錠がされていることもありますので、抜けていたみたいなのがあつてはいけませんので、しっかりと対応できるようにしていく必要があります。

<越野委員>

そちらのほうに関連しまして、学校施設を利用しているのが学童、キッズ、校庭開放、コミスクも放課後に活動しているグループがいろいろありますので、どこかだけではなくてすべて統一したものを出示していただきたい。もし津波に備えてというものだったら、やはり普段からの訓練はすごく大事だと思います。東日本大震災の時でも助かった学校というのは、毎月のように避難訓練していたというお話もありましたので、そういう団体が一緒になって確認するような機会を設ける等考えていただきたいです。

<酒井委員長>

子どもの視点から考えたら、子どもたちにこうなさいよと叩き込むのが訓練なので、学校にいる時はこう、先生いる時はこう、学童保育の時はこう、コミスクの時はこう等、バラバラだったら子どもたちは対応できませんので、やはりその中で主体的に判断する子に今育てていくのが学校教育だと思いますので、ぜひ皆さんおっしゃったように、統一的にしていきたい。1つ違うのは、学校にいる場合は先生方がたくさんいらっしゃいますけど、いない場合は引率者が限られるというところだけが違うので、その辺の視点を置いていただいて、またご検討いただければと思っております。

<学校教育課：尾上委員>

担当課が違うのではっきり言えませんが、数年前までは水平になっていて、岩園小学校など山の方にしていますけど、毎年いろいろと変わっていく中で、今現状でいくと垂直いわゆる4階3階に上がるというように学校の方も変わってきています。全部がどうなっているかというのは把握していませんが、基本的に長い距離を歩くというのは小学1、2年生には厳しいのではないかとこのところ、一番高いところに逃げるというのを今徹底しているのではないかなと思いますので、それに統一するような形になるのではないかなと思っております。担当課ではないので申し訳ないですけど、現状そういう状況です。

<社会教育推進課：渡邊課長>

少し話がそれますが、私、昨年度まで上宮川文化センター長をしておりました。

確か津波が来るまで2時間ありますので、打出保育所など上宮川文化センターに近い保育所については、まず上宮川文化センターに避難することを毎年訓練されていました。先生方が、子どもたちをカートに乗せて上宮川文化センターまで運ぶなどという事をされていました。2時間で子どもたちは2号線より北に移動するっていうのを徹底されていましたので、今現在、保育所はどのようになっているのかというのは、今年度こちらに来ましたのでわかりませんが、芦屋市では保育所に関しては2号線より上に行くという訓練はされておりました。

ただ、海の方から岩園小学校へは大変距離があり、現実的ではないと思いますので、尾上先生がおっしゃっていたような垂直避難に変わっているのではないかとは思っております。

<中村委員>

前回に出席させていただいた時に、これは少し失礼な話にはなりますが、どなたかが何かあった時に走れる方、パッと動ける方が絶対いて欲しいという話をされていたのを覚えています。

私でも今すぐザッと走っていけるかと言ったらやはり不安もありますし、何かあった時に動きが速い方が誘導をしていただけたら安心です。その人数も確かに必要かもしれませんが、そういう方は絶対に必要だなと思います。

<酒井委員長>

その場にいらっしゃらなくても、連絡すればすぐ駆けつけてくださる等、そういうことも現実的かもしれません。

<中村委員>

そうですね。そういうことも連携が取れていたらいいかなと思います。

<足立委員>

ちゃんとマニュアルを作ってもら。キッズだったらキッズにいてくれる方に、コミスクの方は各チームの監督に、学童も、誰がその子どもたちにその指示をするかということを、決めておいたらいいのではないかと思います。はっきりと責任者ということはまた別として、やってくれる人、リーダー、引っ張ってくれる人というのはやはり必要だと思う。

学校は決まっています。潮見であれば中学校、小学校、保育園、幼稚園とも連携して訓練指導をやっています。そういう今研究している僕たちのこの時の時間のことは抜けていたので、リーダー的な人を決めておいて欲しい。

<酒井委員長>

他よろしいですか。

この件、学校教育と社会教育課、連携取っていただいて、教育委員会としてまたご検討いただくということでよろしくお願いいいたします。

また何かありましたら、最後の方にまとめていますのでお願いいいたします。

それでは、それ以外の件で、キッズスクエアについてご意見ご質問ございませんか。

<池田委員>

海外ルーツのかたは皆さんどのようにして申請されていますか。電子申請が多いですか。

書面申請の場合は誰かが付き添わないとなかなかできない。私も浜側に住んでおり、浜はとて外国人の方が多くいらっしゃるの、キッズスクエアに来られているかどうかはわからないのですが。

<青少年育成課：常塚主査>

ちゃんと集計を取っているわけではありませんが、個人的な印象では海外ルーツの方で参加されている方は、各校で何人かずついらっしゃると思います。

日本語が読める外国の方で、電子で申請されている方もおられますし、窓口で書面で申請される方もおられます。

<池田委員>

電子申請では英語バージョンはありますか。

<青少年育成課：常塚主査>

現状はまだ対応できてない状態です。窓口に来られてこちらで説明して書いていただいているというのが現状です。

<池田委員>

潮見地区は多いですから。外国の方が今 20 ヶ国、その中でも浜側はすごく多いので、みんなどうしているのかなと思って。

<足立委員>

20 ヶ国ですから中国の方も多し、言語が英語だけじゃない。

<池田委員>

キッズスクエアの案内はその方たちにはどのようにされていますか。

<青少年育成課：富田課長>

転入された時に、学校からもキッズスクエアの案内をしていただいているところです。

よくある流れとしては、市役所にいろいろな事務手続きで来られた時に、国際文化推進課に来ていただき手続きする中で、キッズスクエアもありますということで、通訳できる方と一緒に青少年育成課の窓口に来ていただくケースもあります。今は電子申請ができるので、例えばお知り合いの方に手伝ってもらって、申請はやっていただくような形でされている方もおられるというように聞いていますので、そういった形で今はご登録いただいている状況です。

<酒井委員長>

ただ、今後できたら具体的な数値があったら嬉しいなと思う。

<池田委員>

浜側すごく多いですね。もれて遊べなかったらかわいそうだと思う。

<青少年育成課：富田課長>

外国にルーツのある子どもさんは最初はなかなか馴染めないと思うので、キッズスクエアにぜひ参加して欲しいと思っていますので、そういった方が登録しやすいようにというのは引き続き考えていきます。

<酒井委員長>

せめてワンステップで英語だけでもつけることは容易と思います。

あと外国ルーツの子どもたちの件でご意見ございませんか。

それではその他の点からいかがでしょうか。

<越野委員>

キッズスクエアは公立小学校に通う児童だけではなく、私立の小学校に通う子どもさんも何名かいらっしゃいます。そういう方はどのようにして知り得るのですか。

<青少年育成課：常塚主査>

同じマンションに住んでいる友達から聞いたという声は聞いたことがあります。

<青少年育成課：富田課長>

私立の学校に通っていても、公立の学校から必要な資料はお渡しいただけるようになっています。

<酒井委員長>

他いかがでしょうか。

特に、裏面の 3 ページ、付属するスクエア新聞等、そのあたりでご意見ございませんか。

<柳生委員>

感想になりますが、このロゴコンテストの内容を見ると、子どもたちが本当にキッズスクエアをすごくいい場所というか、楽しい場所のように感じているのだなあと。本当にスタッフとしても、とてもうれしいことでこれはぜひ続けてもらいたいと思います。

表彰状がきたら子どもたちはすごく喜んで一緒に写真を撮ったりし、とても嬉しそうでした。これは本当にいい取り組みだと思います。

<池田委員>

ただ知りたいだけですが、この選考会はどこでするのですか。この市役所の中の皆様方を見て選ぶのですか。

<青少年育成課：常塚主査>

青少年育成課の職員 5 人ほどです。

<酒井委員長>

応募数はどのくらいですか。

<青少年育成課：常塚主査>

今年は夏休み期間に募集をかけたので、1 校あたり 15 から 20 枚ぐらいだったと思います。1 人で何枚か書いている子もいました。

<越野委員>

夏休みは参加する子が結構固定されていて、毎日同じメンバーになることがありますが、平日は来ているメンバーが全然違ったりします。夏休み以外にも 1 回やってもらえると、また違う子も応募できたりするのかなと思います。

<酒井委員長>

大変好評だということで、ぜひ回数を増やしたり、また表彰状等も工夫していただいたりできたらと思います。

私個人で、第 8 号を見たらある意味斬新です。イラストが全くないですね。ある意味引きつけられるのですが、子どもたちに読ませるとなると小学校でレイアウト等も勉強している時代なので、写真等イラスト等入れて読んでみようかなという気によりしていただいたらどうかという感想を持ちました。これは感想ですよ。

他いかがでしょうか。特にプログラム等についてまだご意見出ていませんけど。

<足立委員>

プログラムのところに交通安全課の教室や、熱中症講座があります。ぼくら消防団で相当習いましたが、指をけがしたらその切った指の巻き方をすぐ教えてくれます。このような救急講習があるので、子どもたちも怪我した時にはこうだよとか、火傷したら水だよとかいう講習も入れたらどうですか。救急からやってくれますのでね。骨折れたら買い物袋で作るとか、簡単にそこであるものでどうするかっていうようなことも、心肺蘇生法のようなことじゃなくて怪我の講習会もありますので、入れたらどうかなと思います。

<酒井委員長>

ご意見ありがとうございます。他いかがでしょうか。

プログラムにおいて、メディアなどに掲載されることは今年度はありませんでしたか。

<青少年育成課：常塚主査>

そうですね。市として掲載しているものはありませんが、企業と一緒にやらせていただいた時に、その相手の企業の方が自分のところのホームページに出させていただきたいというケースは何度かありました。

<酒井委員長>

なるほど。そんなところをピックアップして資料を載せていただいてもいいですし、公平性もありますけど、是非、新しいプログラムなど、目玉になる、または魅力を伝えるプログラムをどんどんメディアを利用したらいいと私は思っています。

あしやキッズスクエアのご意見はございませんか。

<越野委員>

放課後児童クラブとの連携がなくなっています。以前、山手の方で2、3名ぐらいの登録がありました。最近あまり見かけなくなりました。キッズだけ、放課後児童クラブだけというような利用の仕方になっていっているようですが、他のところでは連携はありますか。

<青少年育成課：常塚主査>

すぐには数字が出てこないのですが、全体的に見てもほとんど連携はいらっしやらない。いても数名程度です。

<青少年育成課：芝田係長>

正直なところそこまで多くはないです。各校にいても1人2人程度でかなり少ない。

<越野委員>

連携を利用する場合、必ず5時まではキッズの方において、5時に放課後児童クラブの方に行かないといけないという縛りがあります。でもキッズは自由に参加できて自由に帰れるというところが魅力なところだと思いますし、例えば4時ぐらいまでは仲良しの友達と一緒に遊んでいたけれど、その子が帰ってしまったら1人になってしまって、遊び相手がいないのに5時まではキッズにいないといけないというようなことが見受けられたんです。放課後児童クラブに行った方がお友達もいるから早く行きたいという時もあったので、その辺がもう少し融通がきいたら連携も利用する方がいると思う。

<青少年育成課：芝田係長>

もう少し柔軟にこちらも考えさせていただきたいと考えていますので、今現実的に言うと前回からほとんど変わっていない現状もあり、少しずつ時代も変わって使いにくい部分も出てきているかなと思いますので、もう少し使いやすくしていくように考えさせていただきたいと思います。

<酒井委員長>

よろしくをお願いします。他、キッズスクエアに関して、ご意見ご質問ございませんか。またありましたら最後にお出してください。

それでは、議題2の令和7年度放課後子どもプラン事業について事務局よりお願いいたします。

<事務局：池田係長>

(配布資料：【資料3】に基づき説明)

<酒井委員長>

ありがとうございました。それでは議題2の令和7年度放課後プラン事業について、ご意見、ご質問あればお願いいたします。議題1に関連しても構いませんので、どうぞ。

<越野委員>

今現在はキッズスクエアの方、運動会や音楽会による行事の代休日も実施になっていますが、山手では参加が少なかったりするのですが、他は参加ありますか。

<青少年育成課：常塚主査>

他のところも代休日に関しては、参加者が減る傾向にはあります。だいたいどこも5人いたら多いかなという感じです。

<越野委員>

代休日も開催が 8 時半から 5 時までと結構長く、運動会の場合だと雨予報があったら順延になる可能性もあるので、シフトを組んでくださる方が順延のことまで考えて人員を確保していかないといけないというのがとても大変そうでした。蓋を開けてみると普通に晴れて開催できてよかったという感じではありましたが、無理に代休日まで開催はなくてもいいのかなというのは感じておりました。

<酒井委員長>

代休の件でそのあたりいかがでしょう。

<青少年育成課：富田課長>

キッズスクエアを始めて 10 年目ぐらいになりますが、その間いろいろ地域の方からお声をいただき、中身のことも考えていただいているところです。代休の実施についても、スタッフや皆さんのお声を聞きながら、今後どうするかというのを相談して考えていきたいと思います。

人数は確かに少ないのでそこは課題ではありますが、一方で少ないからしないということも含めて、今後また検討していきたいと思います。

<酒井委員長>

ご検討よろしくお願いいたします。他いかがでしょうか。

それではないようですので、先ほど言いました議題に移りさせていただきます。

続きまして 3、学校運営協議会と地域学校協働活動について、事務局よりお願いいたします。

<社会教育推進課：渡邊課長>

まず学校運営協議会の概要と地域学校協働活動をご説明させていただきます。

私の後に、学校運営協議会を尾上委員より説明させていただきます。

(配布資料：【資料 4】に基づき説明)

続きまして、学校運営協議会について尾上委員から説明をよろしくお願いいたします。

<学校教育課：尾上課長>

(配布資料：【資料 5】に基づき説明)

<酒井委員長>

ありがとうございました。

それでは、この 2 件に関してご質問、ご意見ありましたらお出してください。

芦屋市では県内でも先進的に、地域とともに学校づくり、学校とともに地域づくりを進め

られていると思うのですけれども、モデル校というのが設定されて何年たちましたか。

<学校教育課：尾上課長>

令和4年度からスタートしましたので、3年で全校配置です。

<酒井委員長>

ということは、そのモデル校ということで先進的にされたことによって、大きなメリットや、学校がこのように良くなったなど、モデル校の具体的な事例はございますか。

<学校教育課：尾上課長>

この学校で何かよくなったというよりは、これを進めるにあたっての課題が見えてきた。学校運営協議会は年現状今3回、学期に1回というような状態ですが、ただこれまでの評議委員会からのテーマが変わらないままの状況なのですが、本当はここから1歩先に進むようなテーマを協議する部分を考えていくと、学校中心だと学校の中のテーマだけに止まってしまうのですが、例えば最初にスタートした朝日ヶ丘小学校は、防災訓練を平日、小学校と地域の方と一緒にやって行くところもありますので、それをもとに各学校がそれだったらこういうことができるかなというところはあるかなというように思っています。

<酒井委員長>

ありがとうございました。

<足立委員>

もともとの評議委員と学校運営協議会との区別ですが、はじめに学校運営協議会があったところに知り合いがおり、どうかと聞いたら評議委員と一緒にやというような感覚だった。僕も1回受けた。いわゆる議長を設けて進めていっていますがまだまだ評議委員の続きとか、今までと同じように意見を出し合いながらというような感覚です。まだちょっと馴染んできてないようです。他のところに聞いてもそのようなこと言っていました。

<学校教育課：尾上課長>

新たに作れば多分ルールも変わりますが、もともと評議委員会をうまくできないかという教育委員会としての方針でさせてもらったものですから、なかなか現場もこれまでの流れでというところがあります。徐々に変えていくと言いますかやっついていかないと、そこにはやはりいろいろな方に参画していただくというほうが重要ななと思っています。これまでだとPTAの会長だからやっついて、PTAの会長が変わると次の人になるのではなくて、やはり地域を支えるこの方この方という人選や、いろいろとこれまで評議委員会だったらどここの会長等というような、言い方悪いですけどあて職的なところでしたけれど、そうで

はなくてその人選からもいろいろと考えながらやっていく。そこにはコミスクの方もいるだろうし、ボランティア団体の方もいるというような形で、勉強しながらやっていく必要性はあるかなと思っています。

<足立委員>

この協議した内容っていうのはどこか上にあがるのですか。

<学校教育課：尾上課長>

上というよりはこの協議の内容についてはそれぞれ発信するという形で、ホームページ等でこちら議事録みたいな文章ではなくて、皆さんが見やすいような新聞的なものを作って報告するというような形になっています。

やはりそれが本来であれば、それぞれの学校運営協議会の協議が今度地域学校協働活動案でいくと、このような形で集まって、こういう課題を、というように市全体で共有がされてくるのかとは思いますが、現状は学校運営協議会というその学校ごとのところに上がっている。別に潮小に1校、潮中に1校というわけではなくて、潮見校区として学校運営協議会1つという方法もあります。

だからこそ今後、いろいろなところで何度となく中学校も行って小学校も行っているのではないかと思うのですが、そこを同じようにというような考え方もありますので、今現状幼稚園は入っておりませんが、そこに潮見幼稚園などのコミュニティを作って、そしてみんなで地域を盛り上げようというような方法もありますので、今現状は11校でさせてもらったのですが、今後はいろいろと考えていかなければと思っています。

<酒井委員長>

ありがとうございます。

<中村委員>

やはり年齢層がバラバラの方が意見がいっぱい出る。その分まとめるのは大変かもしれませんが、年齢もバラバラで一般の人の意見を聞けるというのが一番理想かなとは思いますが、そのようにできたらいいと思います。

<学校教育課：尾上課長>

他市ではずっとではありませんが、ここに中学生、高校生を呼んで話をするというような形で、通常平日の10時ごろからどこも学校運営協議会されておりますが、放課後に学校運営協議会して、高校生中学生の参加というようなところもございます。ただ芦屋ではちょっと今現状できておりません。

そこで高校生中学生の考えをどうですかということでプレゼン的なことをしながら、このようにしていこうというところを、話し合う場であるようなところもございます。

<足立委員>

その通りです。僕らもう年取っているから変えてくれと。僕の場合は自治会の役員に子どもがいる人から意見を聞いて出ていかなければならない。

僕と同じ年代の彼は運営協議会に入っており、両方ともがもう年だからおろしてくださいということを3年ぐらい前からお願いしている。いろんな年齢の方に関わってもらいたいなと思います。

<学校教育課：尾上課長>

学校長は異動がありますが地域の方って基本変わらない。だからこそ地域で学校を支えていこうというのが、今回のこの学校運営協議会のシステム。その地域で盛り上げるというところはやはり必要かなっていうところです。

<柳生委員>

この学校運営協議会という存在は、どちらかというとき少し特別で閉鎖的な学校をもっと開いていこうという理想というか、地域の中の学校で、また学校が地域を育てるといふ、そういう共同的なものに理想的なものを感じます。

私はたまたまこの場に出ることで、こういう協議会が今までの表現とは違った形で地域ぐるみで学校を育てていこうという存在を知ったわけですが、広報というか、もっと地域に広げていこうとしながら、知っている人はほとんどいないというような現状ではないかと思うので、誰でも参画できるということを広報していく方法というのを考えていかなければいけないのかなというのを今感じています。

<学校教育課：尾上課長>

おっしゃる通りだと。そこはもう教育委員会として何をすべきかということを知らないといけないし、なかなか難しいところがありますのでこちらも勉強しながらやっていかなければいけない。

<柳生委員>

例えば自治会などにこういう協議会、評議委員会がこういう形で変わっていますよなど、そこに関わることができるんだということ、それぞれの自治会などにまず広める等、もちろん市の広報に載っていくのだと思うのですが。又、若い世代のいろんな意見が入っていくっていうことも大事だと思います。

<足立委員>

学校の先生が人選するのですか。

<学校教育課：尾上課長>

そうですね。校長からの推薦でこちら側に任命するような形にはなりません。今年から学校運営協議会は全校スタートし、ここからどんどん連携しながら、次変わったとしてもその方々というような形でスタートしました。コロナが間に入ってしまったが、本市の場合は何等令和 4 年度からスタートしたので、そこをうまく勉強しながらやっていきたいと思っています。

<中村委員>

あと先ほどキッズの時でもお話が出ていたと思うのですが、うちの子ども達は公立で芦屋市に関わっていたけれども、他の私立に行っているお子さん等もいらっしゃるの、そういう方たちのこともやはり抜けないようにしてあげていただきたいと思います。

保護者の方は特に多分芦屋市に住んでいても、芦屋市のことわかってない方もいらっしゃると思いますので、そういうような方の抜けがないように考えていただければなど。

<酒井委員長>

ありがとうございました。他いかがでしょう。

<越野委員>

私も今学校運営協議会のメンバーで入らせていただいている、パイロット校だったのでもう 2 年ぐらいは経ちます。やはりもともとが学校評議委員会というものがあって、その流れを受けての学校運営協議会で、メンバーも少し厳選されたメンバーにはなっていますがやはり前を知っている方が多いため、その感じから抜けだせないというところがあります。

協議会主体で動いて欲しいと教育委員会からもご説明があり、そういう思いはわかりませんが急に学校運営協議会で、では願いますとも言いつらく、やはり 2 年経っても学校側主体で動いているような会議になってしまっています。また学校で協議会をしているということもあり、学校の活動報告も今までのようになっていますが、本来なら内容は学校のことに限らず地域全体の課題を話し合う会であることが理想だとは思っています。皆さんが意見を言って、はい終わりというような形になってしまっているの、これをもう少し引き続いて、話の中から私たちの団体ではこの課題のためにこういう取り組みをしますというのが理想なんです。今日先生がおっしゃったように、今はそれぞれ学校ごとに学校運営協議会が設置されていますが、その地域ごとにあつたほうが地域の課題というのが話し合える。小学校、中学校、幼稚園もある中で、地域全体の話もできる。メンバーの選定についても先生方も今までの繋がりがあるため急にガラッと変える、また他の方って急に言われても校長先生もお困りだと思います。本当はガラッと変えてしまった方がスタートっていう形かなとは思いますが。

<学校教育課：尾上課長>

本来はそういう方法がよかったと思いますが、どうしても学校の負担だったり地域の方々に何度もというようなところもありますので、その部分で今回芦屋ではこのような形にしました。スタートしてみているいろいろな課題が今現状見えてきているというところですので、その辺少し私たちが教育委員会として、学校とも連携しながら徐々にうまくいくような形でと思っています。

<足立委員>

とっても難しいと思います。

地域でなかなか難しいところがあると思いますが、やはり広げていかないといけない。やはり新しいメンバーを探してもらったらいいなじゃないかなあとお願ひしたいと思います。

<酒井委員長>

ありがとうございました。

たくさんご提案いただきましたし、また各市でもう実践されていますので、各市の共通する課題も出ていますので、ぜひご検討いただいてよりよい芦屋の教育のために進めていただきたいと。

やはり芦屋キッズスクエアという土台があるので、ぜひそれをうまく活かしていただいて、ここにあります学校運営協議会及び地域学校協働活動を進めていっていただきたいと願っております。

それではその他の方に入らせていただきます。

では、議題4その他について事務局から何かございますか。

<事務局：池田係長>

事務局からは特にありません。

<酒井委員長>

最後に言い残したことはありますか。

それでは事務局から案内があればお願ひいたします。

<事務局：池田係長>

会議録についての案内です。

後日、事務局より会議録案を電子メールにて皆様にお送りいたしますので、ご発言内容等についてご確認いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しいところ恐縮なのですが、事務局から会議録案を送らせていただく際には、速やかにご回答を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

最後に、令和6年度の運営委員会は、今回をもちまして終了となります。

委員の皆様の任期は1年間となっておりますので、一旦の締めとさせていただきます。また、来年度以降の委員就任につきまして、別途ご案内をさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

<酒井委員長>

どうもありがとうございました。

それでは私の方で閉会の挨拶をさせていただきます。

今年度も委員の皆様、そして事務局の皆さん本当にお世話になりました。

それぞれの立場において、今後もどうか芦屋の子どもたちのためによりしくお願いいたします。今後ともどうかよろしくお願いいたします。これで会の方を終わらせていただきます。

ご苦労さまでした。